

谷津山配水池（第4次中期経営計画(短期計画)登載事業）

中町浄水場・配水池（経営戦略(中期計画)登載事業）

1 現 状

- ・ 谷津山配水池(昭和38年築造(付随管路も同様)、RC:3,000m³×2池、6,000m³)
- ・ 更新・耐震化の優先順位の高い重要施設
- ・ 耐震化事業を平成27年度から開始
- ・ 耐震化工事 令和2～4年度(約3.9億円)

1 現 状

- ・ 中町浄水場・配水池(昭和7年築造(付随管路も同様)、RC:2,500m³×2池、5,000m³)
- ・ 更新・耐震化の優先順位の高い重要施設
- ・ 更新(耐震化)を実施しなければ、使用を継続することができない
- ・ 更新(耐震化)工事 令和4,5年度(約3.9億円)
- ・ 7月の導水管の漏水事故により、運転停止中

2 課 題

- 1 整備拡張から維持管理の時代の大きな状況変化への対応(北部ルートの完成によって、これまでの整備、拡張から維持管理の時代へ完全に移行した)
- 2 現計画では、施設・管のダウンサイジングや配置等の再構築を伴う施設規模の見直しや統廃合が、十分に織り込まれていない
- 3 人口減少等による水需要の減少に伴う、既存の水源・施設の有効活用(北部ルートの常時送水等、水融通の検討)
- 4 コロナに伴い料金改定を4か月延期したことへの対応
- 5 冗長性の確保(非常時に必要な予備力の適正化)

水運用計画策定による施設のあり方の見直し(令和2年1月～)、コロナ禍に伴う事務事業の総点検・全ての事業の洗い出し
(必要条件 : 市民サービスの低下は招かない)

3 今後の方向性(案)

谷津山配水池の廃止

- ・ 耐震化された城内配水場・麻機配水場・松富第2配水場の3池でカバー可能
- ・ 上記3池で非常時に必要な予備力を十分確保可能
- ・ 付随する基幹管路の更新が困難
- ・ 第4次中期経営計画では、これに代わる耐震化事業を追加し、目標を維持する

3 今後の方向性(案)

中町浄水場・配水池の廃止

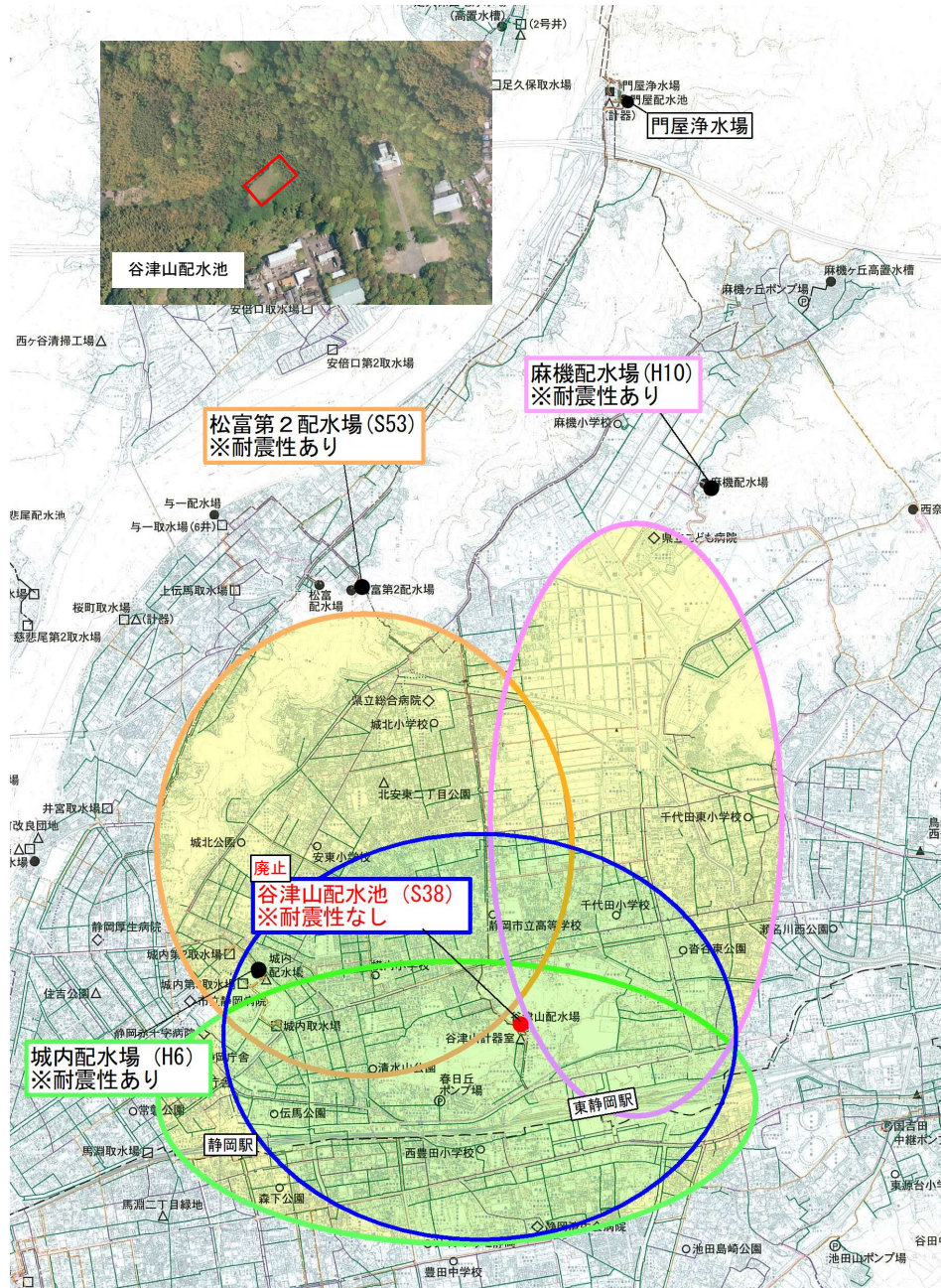
- ・ 和田島配水池及び大平山配水池で配水エリアをカバー可能
- ・ 北部ルートにより予備力確保可能
- ・ 付随する基幹管路の更新が困難
- ・ 中期的な経営戦略の見直しを進める

現在検討中の施設 【今ある施設を活用】草薙配水池、向敷地配水池
【新しい施設を整備】大平山配水池(清水中央配水池)、門屋浄水場配水池 など

< 目指す姿 >

将来の世代に健全で強靱な水道事業を引き継ぎ、現在の水道サービスの水準が維持できる、持続可能な水道事業の実現

谷津山配水池



中町浄水場・配水池

